

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年12月10日（水）

2 確認箇所

サブドレン他集水設備高台移設場所（33.5m盤上）（図1）

3 確認項目

サブドレン他集水設備の高台移設工事の進捗状況

4 確認結果の概要

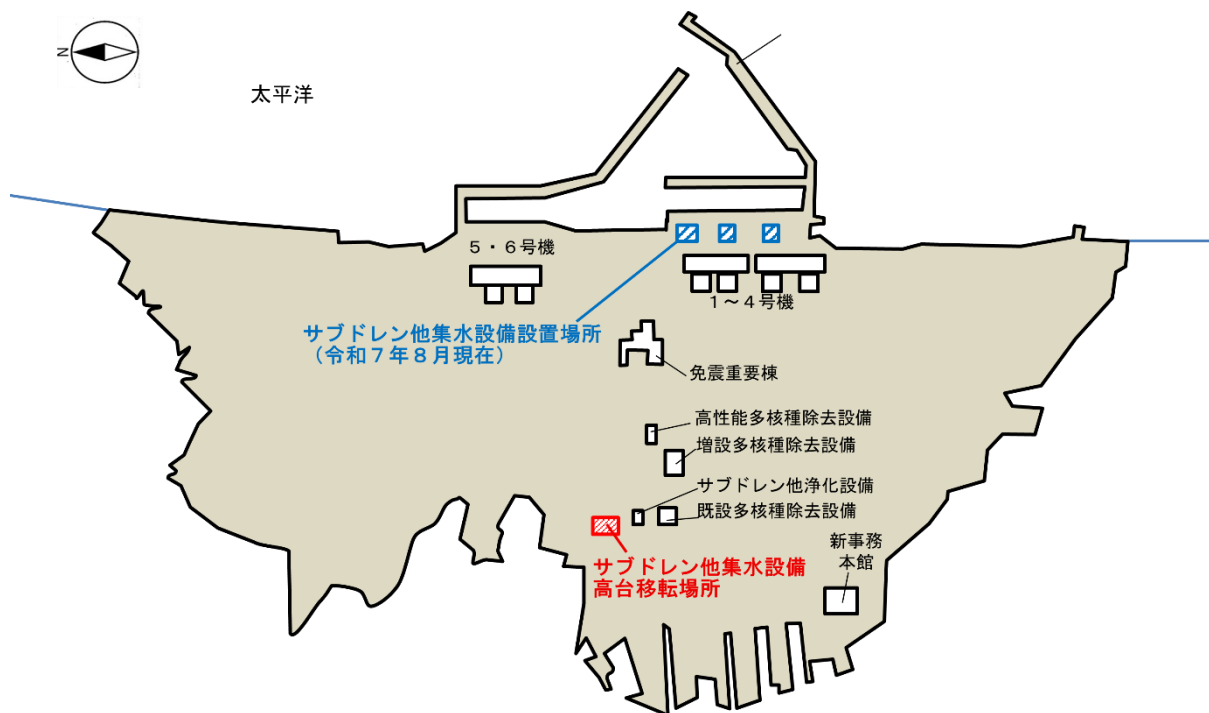
福島第一原子力発電所では、地下水が原子炉建屋等に流れ込むことで発生する汚染水の量を低減させるため、建屋近傍に設置した井戸（サブドレン）から地下水の汲み上げが実施されている。汲み上げた地下水を集水する設備（以下「サブドレン他集水設備」という。）は、海岸近傍（T. P.^{※1} 2.5m盤（図1））に設置されており、津波発生時に設備が損傷する恐れがあることから、東京電力では、当該設備の発電所構内の高台（T. P. 33.5m盤（図1））への移設を進めている。

前回確認に引き続き、サブドレン他集水設備の高台移設場所での工事の進捗状況を確認した。（前回確認：令和7年8月22日）

- ・高台集水タンク周囲に設置された堰内では、配管敷設及び弁の設置作業が進捗していた。配管にはPE管^{※2}が使用されており、接続は融着により実施されていた。融着作業にあたっては、融着温度や冷却時間等を管理し、慎重に施工が行われていた。（写真1）
- ・高台集水タンクが設置されているエリアとサブドレン浄化設備は約20m離れた位置にあり、その間には道路が走っている。道路を跨いで配管を敷設する必要があることから、道路上には金属製グレーチングで覆われた管路が設置されており、その管路内を通して配管が敷設されていた。（写真2）
- ・高台集水タンク払出ポンプ建屋内において、ポンプ設置位置の目印を床に付ける作業（墨出し作業）が行われていた。作業は2人1組で図面を確認しながら、慎重に進められていた。（写真3）
- ・東京電力によると、サブドレン他集水設備の高台移転のスケジュールは、地下水を原子炉建屋周囲のサブドレンから高台集水タンク（T. P. 33.5m盤）へと移送する途中に設置される受けタンク（T. P. 8.5m盤）の設置エリアの見直し等が必要となったため、工程を精査中とのことである。

※1 T. P.：東京湾平均海面を基準（0m）とした高さ（標高）のこと。

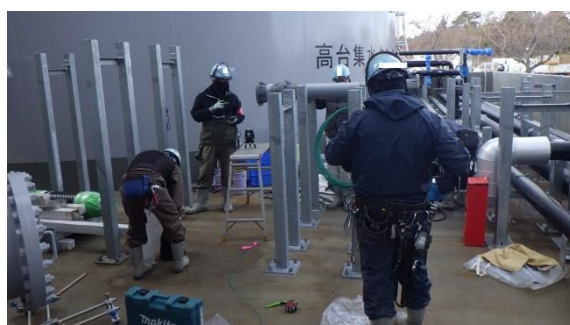
※2 PE管：ポリエチレン樹脂で製造された管であり、軽量かつ柔軟で、腐食しにくい特性を有する。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
配管及び弁の敷設状況



(写真1-2)
配管敷設作業の状況



(写真 2－1)
道路を跨ぐ区間の配管敷設状況①
※手前が高台集水タンク設置エリア



(写真 2－2)
道路を跨ぐ区間の配管敷設状況②



(写真 3－1)
高台集水タンク払出ポンプ建屋外観



(写真 3－2)
墨出し作業の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。